

予防接種「不要不急でない」

感染症が流行しやすい冬がやってくる。今年は10月からインフルエンザワクチンの接種が始まり、乳幼児のロタウイルスワクチン接種が原則無料になった。子どもの予防接種について、改めて知っておきたい。

毎年インフルエンザの流行期が近づくと、東京都分寺市の「くろさわ子ども&内科クリニック」には大勢の親子連れがワクチン接種に訪れる。今年は例年よりやや早い10月初旬からワクチン接種を始めた。まだワクチンの供給



ロタウイルスのワクチンを飲む乳児
(くろさわ子ども&内科クリニック提供)

量は少ないが、接種希望者は多いため、かかりつけの子どもの以外への接種は待ってもらっているという。院長の黒沢サト子さん(76)は「今年は新型コロナウイルスの影響で、インフルエンザにも感染したくないと思う人が特に多いの

ロタワクチン、厳密に時期設定 今秋から定期接種

ではないか」と話す。一方、新型コロナウイルス感染への懸念から、医療機関の「受診控え」は今後も続くと思われる。同クリニックの受診者も例年の半分以下だが、黒沢さんは「子どものワクチンは不要不急ではない」と呼びかける。



同市の会社員、渡辺幸子さん(28)は生後2か月の長男陽保ちゃん(2)の予防接種のため、10月中旬に同クリニックを受診。ロタウイルス、B型肝炎など4種類のワクチンを受けた。

らせる。ワクチンは飲むタイプで、接種回数は2回と3回の2種類がある。接種期間は薬の種類により、生後6週、24週か、6週と32週と決まっている。この時期を逃すとワクチンによる副反応が強くなるため、接種できなくなる。ロタウイルスのワクチンは、10月から予防接種法に基づいて国が接種を勧奨する定期接種となり、原則無料で、任意接種だったこれまで3万円前後の自己負担が後、自己負担が低かった。

必要で、特に地方の接種率が低かった。

PO法人「VPD(ワクチンで防げる病気)を知って、子どもを守ろうの会」理事長で小児科医の菅谷明則さん(64)は、「生後2か月になったらワクチンデビューと覚えておいてほしい」と話す。ワクチン接種についての詳しい情報は、同会ホームページ(<https://www.know-vpd.jp/>)に掲載されている。また、接種時期や回数、間隔などを知らぬのに便利なのが、同会提供のスマートフォン無料アプリ「予防接種スケジュール」。各ワクチンの解説のほか、接種済み・接種予定をチェックできる一覧表機能などを備えている。ほかにも、自治体が提供するアプリなどもあるので、上手に活用したい。

渡辺さんは「コロナも心配だが、ワクチンを打たないと、もっと重い病気に感染してしまう可能性もあると思う。スケジュール通りにワクチンを接種していきたい」と話す。

ワクチンごとに、推奨される接種時期は異なる。特に厳密に決まっているのが、発熱や下痢などを引き起こすロタウイルスに対するワクチンだ。5歳頃までに大半の子どもが感染するとされ、接種しておけば重症化のリスクを減